

活動報告

JST さくらサイエンスプラン 「共同研究コース」2 回分 18 名の受け入れ

勝又 美穂子

広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業 極限環境対応グローバル接合部門 特任准教授(常勤)

2019年11月27日～12月17日の3週間に渡り、JST さくらサイエンスプランの支援による海外学生の受け入れを行いました。今回は同時期に2回分の受入を行い、国立台湾大学(台湾)から2名、モンクット王トンブリ工科大学(タイ)から2名、インド工科大学ハイデラバード校(インド)から3名、マラヤ大学(マレーシア)から1名、ケランタン大学(マレーシア)から1名、上海交通大学から3名、北京工業大学から1名、天津大学(以上中国)から1名、朝鮮大学(韓国)から2名、ベトナム科学技術アカデミー(ベトナム)の合計18名を招へいしました。本招へいはさくらサイエンスプランの「共同研究コース」の招へいスキームを利用した受入でした。本交流では、渡航前に各自の希望する研究テーマを受入教官と協議し、受け入れ研究室の研究活動とのすり合わせの上、準備を進めました。必要な場合、来訪時には各自が自国で作成したサンプルや試験片を持参し、当研究所の機材を活用して実験、観察などを行いました。

3週間の滞在中、参加者はそれぞれ当研究所の田中研究室、近藤研究室、内藤研究室、伊藤研究室、井上研究室、西川研究室、麻研究室、阿部准教授の研究室に配属され、アーク溶接に係る現象、

複合材料、組織解析、低温ろう付け、疲労予測計算などの研究に従事しました。

活動初日にはオリエンテーション及び本学吹田キャンパスの見学を行いました。また、その翌日には当研究所施設見学、及び受け入れを行う各研究室の研究紹介などを行いました。最新機器が揃う当研究所の施設見学では各機器の利用法や用途について活発な質問があり、熱心に施設見学を行いました。

12月16日(月)には当プログラムの最終報告会を開催し、各参加者は3週間の研究報告を行いました。受け入れた研究室教員の他、研究室学生の参加等もあり、盛況な最終報告会となりました。

実施後に受け取った参加者からのコメントでは、「日本の研究室の運用は適切に管理されていて、研究モチベーションが上がった」、「美しい季節に日本での生活を満喫できて大変楽しめた」、「自身の研究を見直す機会となった」など、多数のコメントがありました。

今回はさくらサイエンスとして初の送り出しとなる連携機関も複数あり、今後の連携の展開が期待されます。

